

(様式1) 平成 23 年度

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2890700046		
法人名	株式会社 ケー・エス・メディカル		
事業所名	グループホーム そよかぜ		
所在地	兵庫県神戸市須磨区北落合2丁目1-31		
自己評価作成日	平成23年10月3日	評価結果市町村受理日	平成23年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102		
訪問調査日	平成23年10月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者様、家族様に第二のご自宅と思って頂けるよう、行事ごとにかかわらず、施設に立ち寄って頂ける雰囲気作りを目指しており、現在週の半分以上はどなたかの家族様が来て頂いて、入居者様と同じ時を過ごして頂いています。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは和風の落ち着いた佇まいで、建物内は機能的な設備を備えながらも、所々に昭和の時代の懐かしさや親しみを感じられる工夫が施された造りとなっている。開設1年を経過する中で、管理者・職員は利用者一人ひとりの思いを尊重し、個々に合わせた言葉掛けや対応を心がけている。食事作りへの参画や入浴・排泄への支援等は、利用者のペースや生活リズムを尊重しつつ適切に対応し、利用者主体の暮らしの継続に努めている。24時間対応可能な医療連携体制を整え、医師や看護師と連携を図りながら、日常の健康管理や医療支援に繋げている。また、日々の利用者の体調管理の為に、栄養摂取量や水分摂取量、排泄状況等をチェックし記録に残し、個々の状態に応じて迅速で柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己 評価	第三者 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関出入り口の目につく場所にて額に入れて掲げている。	『一人ひとりの「物語」を大切に捉え、“ふれあい”を深め、育生、“笑顔”あふれる時間を共に過ごしていきます』を理念に掲げ、方針として「①入居者の気持ちに寄り添います ②人生を共に支えます ③笑顔を大切にしてい、安心して生活が送れるよう支援します ④スタッフは質の向上、専門知識を深めます」を定めている。理念はホーム玄関やパンフレットに分かりやすく明示している。日々、利用者の思いにそいながら理念を意識しケアに取り組んでいる。新人職員のオリエンテーションの中で理念について理解を深めている。	地域密着型サービスの意義や役割を理解し、利用者の状況やニーズに沿った理念・方針について、職員間で検討し見直していく事が望まれる。また、日常的にも理念について話し合い共有しながら意識づけがなされることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理美容などは訪問を利用せず近隣の美容院に行ったり、老人会の主催するカラオケ教室などに積極的に参加している。	近隣の美容院やスーパー・喫茶店を利用する機会を作り、ホームへの理解と協力が得られるよう取り組んでいる。老人会からの声掛けもあり、カラオケ教室に関心のある利用者の参加がある。近隣公園での保育園の運動会を見学する機会があり、今後は更に交流を深めていけるような働きかけを考えている。大正琴やフラダンスのボランティアを受け入れ、誕生会等に参加してもらい利用者との交流を深めている。	運営推進会議等を活用し近隣住民との情報交換を密にするなど、地域交流拡大の為の取り組みを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族様より日々の生活の様子などをもっとよく知りたいとの要望があり、定期的に広報誌や日常の様子のアルバムを作成している。</p>	<p>開設1年を経過する中で、会議は現在2回開催している。利用者家族・小規模多機能事業所の職員の参加がある。運営推進会議の目的・ホーム入居者の現状・行事案内・第三者評価について・医療連携体制と緊急連絡体制についてなど説明、参加者間で意見交換し、サービスの質向上に活かせるよう取り組んでいる。参加者から出された要望を検討し、利用者の日常や行事での様子をフォトアルバムとして定期的に作成するようになり、参加者の意見を運営面に反映させている。</p>	<p>今後は会議が1年間に6回以上開催できるよう働きかけていくと共に、市町村職員か地域包括支援センター職員、地域住民代表の参加を呼びかけ、更に会議が充実していく事を望む。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>医療面(健康管理)を充実する為の相談を市担当者にし医療連携加算の申請行い認知症専門の訪問看護に定期的来て頂く様にする。</p>	<p>医療連携体制加算導入について相談する機会があり、日常でも情報交換し連携を取り合っている。地域包括支援センターが主催する福祉事業者の連絡会に参加し、意見交換の場がある。グループホーム連絡会開催時に市の担当者の参加があり情報提供等なされている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>マニュアルを作成し共通した理解を持つように努めている。</p>	<p>身体拘束について、職員は新人研修で学び理解を深め、日々身体拘束のないケアを目指している。マニュアルを作成し、職員が必要時参考にしやすいようユニットに設置している。建物内のエレベーターやベランダは開放し自由な移動が可能である。ホーム玄関については建物の立地条件や安全面に配慮し施錠しているが、開錠の為の操作を理解している人の出入りは可能で、さりげなく見守り支援している。職員は利用者に閉塞感を感じさせないよう、個々の思いにそって外出に同行できるよう努めている。</p>	<p>日々のケアの中で職員が身体拘束について理解を深めていく為に定期的な研修を実施し、職員間で共有しながら日常のケアを振り返る体制が望まれる。施錠についても身体拘束として認識し、常に改善策がないか意識し合い検討していく事が望まれる。</p>
7	(6)	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>マニュアルを作成し共通した理解を持つように努めている。</p>	<p>職員が必要時参考にしやすいようマニュアルを作成している。身体拘束と共に新人研修で学ぶ機会があるが、職員間で理解を深める為の継続的な学習の機会はない。</p>	<p>高齢者虐待防止関連法を理解し、職員一人ひとりの意識を高めていく為に定期的な研修の実施が望まれる。</p>

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者として市や県の集団指導に参加し、その時に配られた冊子等を職員に目を通すよう指導している。	現在活用している利用者があり、状況に応じて家族の相談や情報提供を行っている。管理者は市や県の行う集団指導に参加し、職員への伝達研修を実施し周知徹底を図っている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。	契約に関しては、事前に家族に配付した重要事項説明書を読んでいただき内容を十分に理解してもらうよう働きかけ、更に契約時にも主に施設長が契約書や重要事項説明書等をもとに詳細な説明を行っている。個人情報の保護や苦情相談については家族からの質問も多い為詳しく説明している。重度化や看取りに対するホーム指針や医療連携体制については利用者・家族の納得のいくよう具体的に説明し、同意をもらっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	別段の機会は設けてはいないが常にそのように努力している。	家族には利用者の日々の様子を理解してもらう為に、ホーム便りと年に4回のフォトアルバムを配布している。また、家族の面会の機会も多く、意見や要望があればどの職員も対処できるよう取り組んでいる。家族から出された意見や要望は、月に1回開催するミーティングや申し送り等で報告・検討し、対応結果については施設長が家族に返答している。利用者の思いや意向は、日頃の関わりの中での会話・表情・行動等で把握し支援している。	苦情や要望については職員間で検討し、対応の経過を苦情・相談報告書として記録に残し、職員間で共有しながらサービスの質向上に反映していくことを期待する。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	別段の機会は設けてはいないが常にそのように努力している。	月に1回ミーティングを実施し、利用者のケース検討や運営面への意見・提案等を出し合い検討している。開設後、職員の異動の多い時期もあった為、施設長や副施設長は一人ひとりの職員の意見や要望に耳を傾け、運営面に活かしていくよう努めている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来ていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修に職員を積極的に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	すまグループホーム・小規模多機能施設連絡会があり参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期にかかわらず、日々の業務やタイムテーブルに優先して本人との対話を重んじるよう指導しているが、職員のレベルによりバラつきがある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期にかかわらず、日々の業務やタイムテーブルに優先して本人との対話を重んじるよう指導しているが、職員のレベルによりバラつきがある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されてから事前面談調査表に基づき再度担当者が家族に対しヒアリングを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	例えば、お茶の御手前をしていただき、職員が「教えていただく」立場で接するなど、介護する側される側という関係性だけではない関係作りに努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努力している。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	入居前に家族やケアマネジャーに入居前事前面接調査票の記入を依頼し、本人のこれまでの生活や環境を把握し、関わりのあった方々や場所との関係継続に努めている。家族や友人の来訪を勧め、来訪時はゆっくりとくつろげるよう支援している。馴染みの場所買い物・外食に行ったり、お墓参りに行くなどの取り組みがある。日常でもドライブの途中に利用者の気持ちにそって懐かしい場所に立ち寄る等、臨機応変に対応している。知人との手紙のやり取りも支援し、利用者が自分でポストに手紙を入れるよう配慮している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供以外はしない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の性質上の制限はあるが出来る限りの努力はしている。	入居前に家族等に記入してもらった事前面接調査票を参考にセンター方式を活用しながら利用者のフェイスシートを作成し、利用者の思いや意向を把握している。入居後も会話や表情・行動の中で意向を確認し、フェイスシートにも補足し日々のケアに役立てている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されてから事前面談調査表に基づき再度担当者が家族に対しヒアリングを行っている。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居してからの能力を観察し、フェイスシートにまとめ、変化があれば修正していけるようにしている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に職員間でのカンファレンスを行い介護計画を作成し、それを基に本人・家族を含め話し合いを行っている。	事前面接調査票やフェイスシートを参考に利用者の様子をみながら、入居2、3カ月後に、個々の職員の意見や協力医の意見も取り入れながら、施設長・副施設長・担当職員で介護計画を作成している。計画は3カ月に1回振り返り見直しを行っており、利用者の状態に変化があれば随時見直すよう取り組んでいる。更新時は家族の意見も取り入れながらセンター方式の一部を使って再アセスメントを行い、利用者のニーズにそった介護計画を作成している。	利用者の状態変化等への早期対応の為に、個々の利用者について、1か月に1回程度のモニタリングを実施する事が望まれる。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に入居者ファイルを作り日常の様子や健康管理に勤めている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医師の往診、訪問看護との連携、歯科医師の往診、地域の商業施設での買い物、北須磨文化センター図書室の利用など、支援している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診のドクターは、一様施設にて準備しているが本人家族が望む主治医がいる場合はその意向に沿って受診・往診して頂けるよう選択肢を設けている。	週に1回の内科医・歯科医の往診があるが、利用者の今までのかかりつけ医の希望があれば応じる体制を整えている。希望する医療機関への通院時の付き添いは基本は家族にお願いしているが、状況に応じて職員対応も可能である。近隣の眼科・耳鼻科・泌尿器科等への受診は職員が付き添い対応している。受診結果については職員と家族間で情報交換し、記録に残している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間の連絡体制と週に1回の訪問を訪問看護に依頼しており、その時々のお気づきに対する質問をしたりアドバイスを受け往診の先生への伝達等もしていただいている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前に病院との関係づくりはしていないが、入院時には、医師や看護師や相談員などと連絡を取り入院中の様子や退院の時期、退院後の注意点など情報交換するようにしている。	利用者の入院時には、利用者の今までの健康状態や生活状況等を医療機関に情報提供している。入院中も職員が面会し、利用者や家族の不安の軽減に努めると共に、病院関係者と早期退院に向けた話し合い、退院後の方針等について情報交換を行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居説明の時よりお話はさせて頂き、実際にひつよな時は早い段階から家族と話し合い施設の方針に従って	重度化や看取りに関してのホームの指針を明確にし、入居時に利用者・家族に説明し同意を得ている。医療連携体制を整え、相談等について24時間対応可能な状況で利用者の健康管理を行っている。現在までにターミナルの経験はないが、ホームの方針にそいながら、利用者の状況に応じて、家族・医師・職員間で方向性の統一の為に話し合っているよう体制を整備している。	今後に向け重度化や看取り体制の整備の為に職員研修を実施すると共に、利用者の急変など緊急時に適切な対応ができるよう、定期的な訓練や学習の機会を作っていく事が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出来ていない		



自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	出来ていない	職員が必要時活用できるようマニュアルを作成しているが、災害時の連絡体制や訓練の実施はできていない。災害時に備えて、飲料水や介護用品等の備蓄は法人全体で準備出来ている。	災害発生時に迅速に対処できるよう、非常災害時の連絡体制を整えと共に、消防署等との連携を図りながら、実践的な訓練の実施が望まれる。また、地域の協力が得られるよう、運営推進会議等で話し合い、近隣との支援体制を整備していく事を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	している。	個人情報保護について方針を明確にし、利用目的について、利用者・家族に入居時文書にて説明し同意を得ている。利用者の写真等の掲載については、利用者・家族の了解を得ている。入浴時や排泄への支援は、利用者の自尊心や羞恥心に配慮した声掛けや対応を心がけている。日常のケアの中で、気になる言動や態度があれば、職員間で注意し合える関係作りを目指している。	個人情報保護も含む利用者のプライバシーの確保について、職員間で周知徹底させていく為に継続的な研修の実施が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食時のパンかご飯かの選択は、できるだけその時に尋ねるようにしたり、おやつ時間の飲み物も何が飲みたいのかを尋ねる等している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事の時間、入浴などに関しても出来る限り、タイムテーブルにこだわらない形でケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	就寝時・日常時・外出時等の洋服の着替えや、季節感に応じた服装をして頂く様心がけている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	している。	外部業者から調理済みの食事の提供があるが、ご飯はホームで炊き、副食と共に利用者が温かい食事を美味しく食べられるよう配慮している。誕生会等は利用者の希望に応じたメニューに変更したり、手作りおやつを工夫するなど食事の楽しみに変化を採り入れている。利用者の関心や状態に応じて、配膳や下膳・食器洗い等に積極的に関わられるよう支援し、利用者の希望の表出や五感刺激につなげている。食事摂取量や水分摂取量はチェック表によって管理され、排泄状況を考慮しながら日々の体調管理に役立っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて歯磨きを促している。必要に応じて歯科往診時に口腔ケアを実施している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	している。	排泄チェック表に記録し、水分摂取量との関係に配慮しながら健康管理に役立っている。自立している利用者についても、さりげなく見守り、状態に応じては適切に前誘導を行い、排泄のパターンに応じた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	とりあえずの曜日時間の設定はあるがそれにとらわれないよう利用者が望むタイミングでの入浴を心がけるようにしている。	入浴は週に2~3回、3時以降からを基本としているが、利用者の希望があれば対応できるよう努めている。入浴拒否傾向のある方については、職員の声掛けや対応を工夫し、要望があれば同性介助にも配慮している。羞恥心やプライバシーに配慮しながらさりげない見守りを行い、利用者が安全にゆったりと寛げる入浴になるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも本人の体調や前夜の睡眠状況に応じて、臥床を促す等している。夜間の入眠時は、音・光・室温等に留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を一人ひとりのファイルに閉じ、職員誰でもがいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や楽しみ事、役割等、本人に合った支援を行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	している。	年間行事にそって外出を企画すると共に、日頃の気軽な散歩はそれぞれの利用者の希望を尊重し個別に対応している。近隣の喫茶店やスーパーにも、個別や集団で行く機会を設け、散歩の途中に利用者の要望があれば希望の場所に立ち寄りしたりする等、臨機応変に対応できるよう取り組んでいる。	管理者・職員は、今後1泊旅行や遠出の旅行も増やしたいとの意向がある為、日頃の気軽な散歩や近所への買い物等の機会も更に増すよう積極的な取り組みを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人にお金を所持してもらうか否か、また所持する場合の金額等を家族と話し合った上で、所持していただいている。お買い物に出かけた際は、本人にその中から支払いをしていただけるよう支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	している。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	している。	ホーム外観は和風の落ち着いた雰囲気、建物内も近代的な部分を取り入れながらも昭和の親しみのある時代を意識した造りとなっている。廊下等の手すりは、利用者の現状を考慮し、あえて設置していない箇所もあり、利用者の身体機能維持に配慮している。今後は利用者の身体の状態に合わせた設置等も考えている。共有空間は、利用者の作品や季節を感じさせる装飾品を飾り、親しみやすく家庭的である。椅子・テーブルは、その日の利用者の心身の状態に応じて自由に移動できるよう取り組んでいる。空気清浄機、加湿器・温度湿度計を設置し、利用者に適した空調管理に努めている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事務所に入ってもらうことも拒むことなく、事務所にいる職員とすごしていただいている。リビングや廊下には、スペース的に困難である。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	している。	居室ドアの表札は、利用者の好みに配慮した装飾を施し、部屋間違い等をなくす工夫がなされている。居室内は利用者の馴染みのあるタンスや仏壇を持ち込み、寛げる空間となっている。ベランダでは洗濯物を干すなど、自由に出入りできるよう配慮されている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かりやすいよう、ネームプレートを本人に作っていただくなどしている。		